

株主通信

2024年6月

YBHD NEWS No.67

- 第160回 定時株主総会決議ご通知
- 第160期 事業報告書



株式会社 横河ブリッジホールディングス

証券コード:5911



代表取締役社長 **高田 和彦**

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
ここに当社第160期(2023年4月1日から2024年3月31日まで)事業年度が終了いたしましたので、株主通信をお届けし、その概況をご報告申し上げます。
第6次中期経営計画(2022年度から2024年度まで)の2年目となる前期の業績につきましては、売上高は、橋梁事業が過去最高を更新した一方で、その他事業で伸び悩みましたため、前期比横ばいとなりました。また、当期純利益につきましては、投資有価証券売却益の計上により過去最高となりました。
今期は、第6次中期経営計画の最終年度となります。
橋梁事業につきましては、今期の新設橋梁の発注量は低調に推移する見通しですが、受注確度を高めつつ、保全工事へも対応することで受注を拡大させてまいります。
システム建築事業につきましては、建設コスト上昇等による設備投資計画の延期や見直しが散見され受注が伸び悩

んでいます。引き合いは堅調であり、引き続きサプライチェーンの国内回帰と物流業界の2024年問題で高まる工場・倉庫の需要をしっかりと取り込むことで本来の成長軌道への回復を目指してまいります。

全体として、エンジニアリング関連事業の大幅な成長を見込んだ売上高と営業利益の目標達成には厳しい手持ち工事の状況ではありますが、受注の拡大と業績の向上に全力で取り組んでまいります。

資本政策と株主還元につきましては、2024年3月期より累進配当を導入いたしました。また前期は10億円の自己株式の取得を実施したほか、配当を予定より5円増配し、1株当たり年間95円とさせていただきます。今期もROEや株価を勘案しながら機動的な追加還元を目指してまいります。

市場評価に関する課題につきましては、当社グループは株主資本コストを上回る収益性を達成できていると認識しており、株価の上昇によりPBRは1倍目前となっております。一方で、PERは業界平均を下回る水準となっており、この理由は成長性等について十分な市場評価を得られていないためであると考えております。株主還元をはじめ、ROEの向上や株主資本コストの抑制、期待成長率の向上によりPBRの改善を図るとともに、基幹事業を中心とする成長や洋上風力などの新規事業分野への挑戦により中長期的な事業拡大を目指してまいります。

当社は、本年6月26日開催の第160回定時株主総会での決議により監査等委員会設置会社に移行いたしました。今後も、コーポレートガバナンス体制の一層の充実を図るとともに、急激なビジネス環境の変化にも対応し持続的に成長できる企業グループを目指し、一丸となって努力してまいりますので、倍旧のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2024年6月

第160回定時株主総会決議ご通知

2024年6月26日開催の当社第160回定時株主総会におきまして、以下のとおり報告ならびに決議されましたのでご報告申し上げます。

報告事項

- 第160期(2023年4月1日から2024年3月31日まで)事業報告、連結計算書類ならびに会計監査人および監査役会の連結計算書類監査結果報告の件**
本件は、上記事業報告、連結計算書類の内容およびその監査結果を報告いたしました。
- 第160期(2023年4月1日から2024年3月31日まで)計算書類報告の件**
本件は、上記計算書類の内容を報告いたしました。

決議事項

- | | |
|--------------|--|
| 第1号議案 | 剰余金の配当の件
本件は、原案どおり承認可決されました。(期末配当金は1株につき50円と決定いたしました。) |
| 第2号議案 | 定款一部変更の件
本件は、原案どおり承認可決されました。 |
| 第3号議案 | 取締役(監査等委員である取締役を除く。)8名選任の件
本件は、原案どおり承認可決され、取締役に高田和彦、宮本英典、吉田昭仁、中村謙、黒本和憲、天野玲子、神野秀磨の7氏が再選され、吉川智三氏が新たに選任され、それぞれ就任いたしました。
なお、黒本和憲、天野玲子、神野秀磨、吉川智三の4氏は、社外取締役であります。 |
| 第4号議案 | 監査等委員である取締役3名選任の件
本件は、原案どおり承認可決され、監査等委員である取締役に廣川亮吾、尾崎聖治、渋谷晴子の3氏が新たに選任され、それぞれ就任いたしました。
なお、尾崎聖治、渋谷晴子の両氏は、社外取締役であります。 |
| 第5号議案 | 取締役(監査等委員である取締役を除く。)の基本報酬額決定の件
本件は、原案どおり承認可決されました。 |
| 第6号議案 | 監査等委員である取締役の報酬額決定の件
本件は、原案どおり承認可決されました。 |
| 第7号議案 | 取締役(監査等委員である取締役および社外取締役を除く。)に対する年次インセンティブ報酬の決定の件
本件は、原案どおり承認可決されました。 |
| 第8号議案 | 取締役(監査等委員である取締役および社外取締役を除く。)に対する中長期インセンティブ報酬の決定の件
本件は、原案どおり承認可決されました。 |

以上

本総会終了後開催いたしました取締役会において、次のとおり代表取締役が選定され、就任いたしました。

代表取締役
取締役社長 **高田 和彦 (重任)**

また、同じく監査等委員会において、廣川亮吾氏が常勤の監査等委員に選定され、就任いたしました。

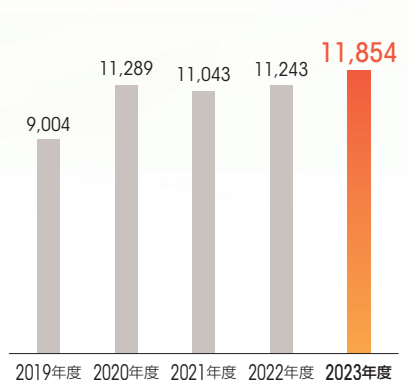
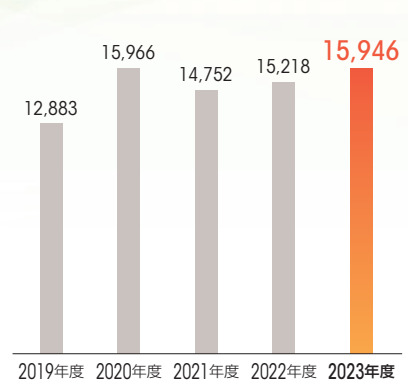
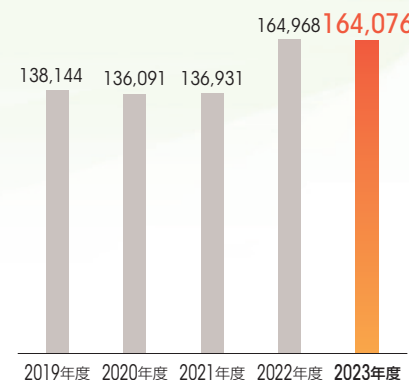
Financial Highlights

▶ 連結財務ハイライト

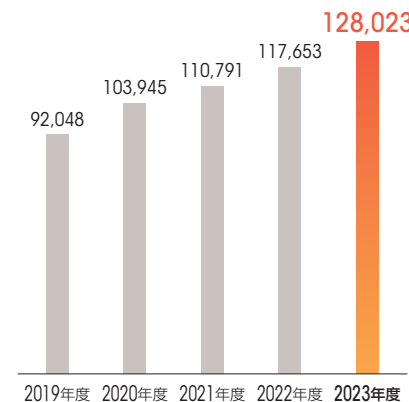
当期(2023年4月1日から2024年3月31日まで)の業績につきましては、売上高は1,640億7千万円(前期比8億9千万円減)と横ばいとなりましたが、営業利益は159億4千万円(同7億2千万円増)、経常利益は158億5千万円(同4億円増)と高水準で推移し、投資有価証券の売却益等の計上により親会社株主に帰属する当期純利益は過去最高の118億5千万円(同6億1千万円増)となりました。

来期(2024年4月1日から2025年3月31日まで)の見通しとしましては、橋梁事業は豊富な受注残に支えられ堅調に推移する見通しです。システム建築事業につきましては、受注回復による売上高の増加を見込んでおりますが、固定費の増加や値上げ効果の一巡により減益を想定しております。全体の通期の業績につきましては、売上高は1,700億円、営業利益は155億円と予想しております。

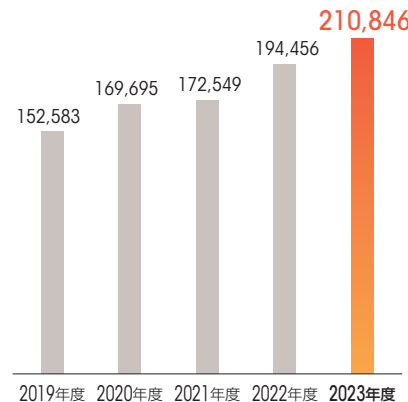
■ 売上高 (単位:百万円) ■ 営業利益 (単位:百万円) ■ 親会社株主に帰属する当期純利益 (単位:百万円)



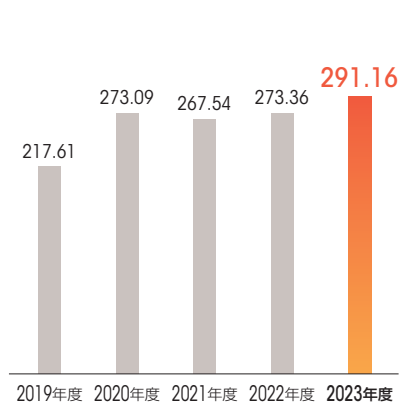
■ 純資産 (単位:百万円)



■ 総資産 (単位:百万円)



■ 1株当たり当期純利益 (単位:円)



Financial Statements

▶ 連結財務諸表

■ 連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前 期 2023年3月31日現在	当 期 2024年3月31日現在
資産の部		
流動資産	133,354	146,255
固定資産	61,101	64,590
有形固定資産	38,607	38,830
無形固定資産	2,454	3,335
投資その他の資産	20,040	22,424
資産合計	194,456	210,846
負債の部		
流動負債	50,660	38,297
固定負債	26,143	44,525
負債合計	76,803	82,822
純資産の部		
株主資本	110,491	118,062
資本金	9,435	9,435
資本剰余金	9,150	9,356
利益剰余金	94,371	102,534
自己株式	△ 2,465	△ 3,263
その他の包括利益累計額	3,809	6,342
非支配株主持分	3,352	3,618
純資産合計	117,653	128,023
負債純資産合計	194,456	210,846

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ 連結損益計算書

(単位:百万円)

	前 期 2023年4月1日から 2023年3月31日まで	当 期 2023年4月1日から 2024年3月31日まで
売上高	164,968	164,076
売上原価	139,496	137,248
売上総利益	25,472	26,828
販売費及び一般管理費	10,254	10,881
営業利益	15,218	15,946
営業外収益	563	487
営業外費用	329	576
経常利益	15,452	15,857
特別利益	1,144	1,946
特別損失	69	271
税金等調整前当期純利益	16,527	17,531
法人税、住民税及び事業税	4,816	5,518
法人税等調整額	46	△ 229
当期純利益	11,665	12,243
非支配株主に帰属する当期純利益	421	388
親会社株主に帰属する当期純利益	11,243	11,854

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

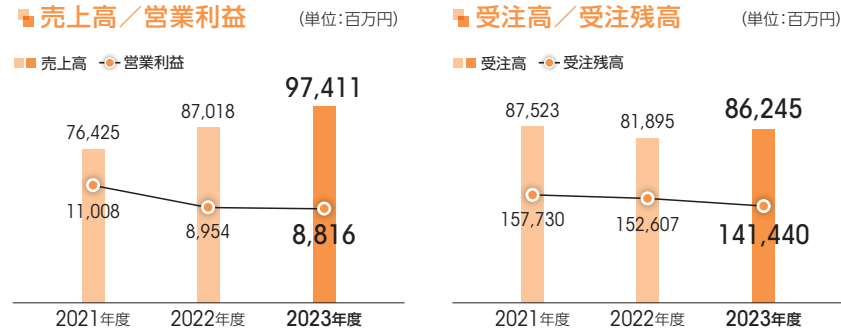
	前 期 2023年4月1日から 2023年3月31日まで	当 期 2023年4月1日から 2024年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 4,350	△ 1,637
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,844	△ 972
財務活動によるキャッシュ・フロー	7,850	2,516
現金及び現金同等物に係る換算差額	28	△ 60
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,684	△ 154
現金及び現金同等物の期首残高	23,458	25,143
現金及び現金同等物の期末残高	25,143	24,988

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

事業の概況



橋梁事業

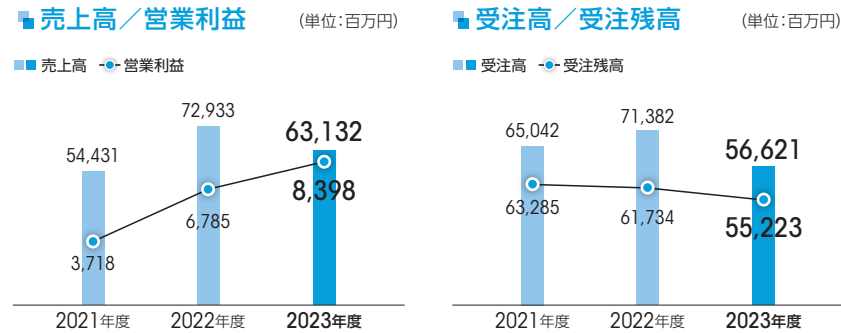


- 国内橋梁の発注量が伸び悩む中、当社グループは国内新設橋梁、保全工事ともに複数の大型工事を受注するなど堅調に推移し、橋梁事業全体の受注高は862億4千万円(前期比43億4千万円増)となり、年度計画を概ね達成いたしました。業績につきましては、売上高は過去最高を更新し974億1千万円(同103億9千万円増)となり、営業利益は前期比横ばいの88億1千万円(同1億3千万円減)となりました。

- 来期の業績は、売上高981億円、営業利益103億円と予想しております。

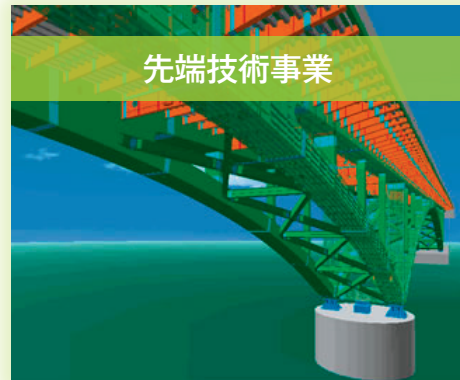


エンジニアリング関連事業

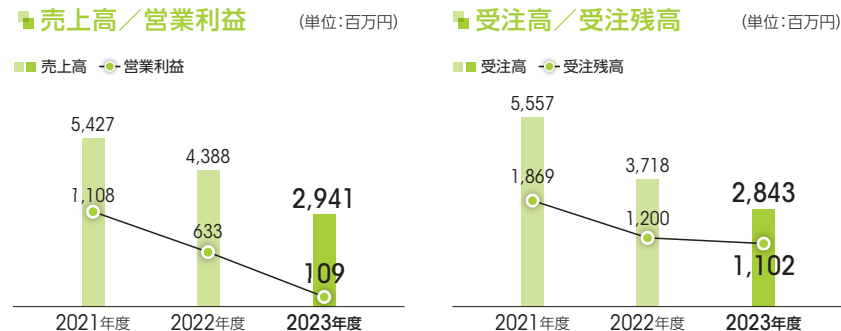


- 事業全体の受注高は566億2千万円(前期比147億6千万円減)となりました。システム建築事業においては、建設コスト上昇等による設備投資計画の延期や見直しの動きが散見され受注は伸び悩みました。業績につきましては、売上高は631億3千万円(同98億円減)となりました。営業利益はシステム建築事業を中心に損益が改善したことにより、過去最高を更新し83億9千万円(同16億1千万円増)となりました。

- 来期の業績は、売上高675億円、営業利益68億円と予想しております。



先端技術事業



- 精密機器製造事業の受注が伸び悩み、受注高は28億4千万円(前期比8億7千万円減)となりました。業績につきましても、受注の減少により売上高は29億4千万円(同14億4千万円減)、営業利益は1億円(同5億2千万円減)に止まりました。

- 来期の業績は、売上高38億円、営業利益3億円と予想しております。



新朝倉橋 完成イメージ図



鏡山跨線橋 完成イメージ図

TOPICS 01

国内橋梁業界で初のグリーンスチール使用 YBC

カーボンニュートラルの実現に向けて

株式会社横河ブリッジは、国土交通省九州地方整備局が発注する「福岡201号新朝倉橋(上り線)外上部工工事」において、マスバランス方式を適用したグリーンスチールを使用することとなりました。本工事は福岡県田川郡香春町において「新朝倉橋」「鏡山跨線橋」の二つの鋼橋を建設するもので、今回、国内橋梁業界において初の使用例となります。本工事は入札時に価格および価格以外の要素を総合的に評価して落札者を決定する総合評価落札方式で発注されており、このうち技術提案のテーマのひとつとして「カーボンニュートラルの実現」が設定されていました。このため株式会社横河ブリッジは技術提案のひとつとして「グリーンスチールの使用」を提案したものです。

本工事では、グリーンスチールとして、鏡山跨線橋には日本製鉄株式会社製の「NSCarbolex® Neutral」を、新朝倉橋には株式会社神戸製鋼所製の「Kobenable® Steel (Premier)」を使用します。いずれもマスバランス方式^(※)により鋼材製造におけるCO₂排出量を100%削減した鋼材です。

当社は、低炭素経済への移行に貢献することを目指しており、CO₂排出量削減と効率的な資源管理を事業活動の目標に

組み込んでおりますが、本工事でのグリーンスチール使用をきっかけとして、関係先と協力しながら、鋼材など原材料の製造過程のCO₂排出量(スコープ3)削減に努めてまいります。

(※) マスバランス方式を適用したグリーンスチールとは

鉄鋼メーカーが実施した追加性のある削減プロジェクトによる温室効果ガス排出削減量またはCO₂排出削減量を組織内でプールし、その削減量を任意の製品に配分して証書と共に供給する鉄鋼製品です。マスバランス方式を適用したグリーンスチールを購入すると、スコープ3排出量を低減することが可能です。

温室効果ガスの排出源ごとの分類

スコープ1	事業者自らによる直接排出(燃料の燃焼等) 例…自社工場における製品製造時の灯油の使用
スコープ2	他社から供給された電気や熱、蒸気の使用に伴う間接排出 例…電力会社から購入した電気の使用
スコープ3	スコープ1・2以外の間接排出 (事業者の活動に関連する他社の排出) 例…他社から購入した原材料等の製造過程で発生する排出

参考 グリーン・バリューチェーンプラットフォーム(環境省)
https://www.env.go.jp/earth/ondanka/supply_chain/gvc/index.html



張弦ケーブル

竣工前フィールド内観

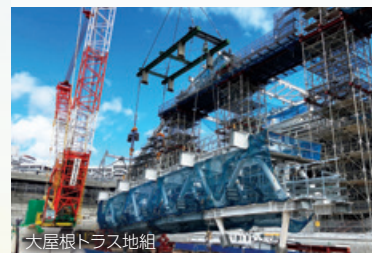
TOPICS 02

エディオンピースウイング広島 YBC

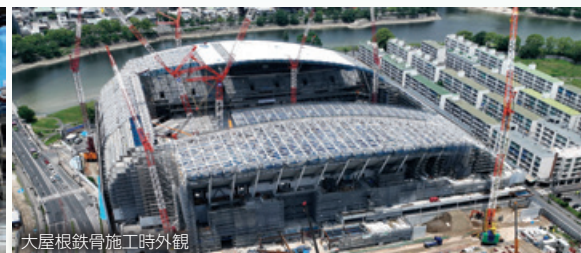
大屋根鉄骨建方、張弦ケーブル設置・緊張工事



大屋根鉄骨建方(出典 山崎エリナ氏)



大屋根トラス地組



大屋根鉄骨施工時外観



大屋根鉄骨施工打ち合わせ(出典 山崎エリナ氏)

工事概要

株式会社横河ブリッジは、大成建設株式会社を中心とする共同企業体(JV)より、Jリーグ所属チームであるサンフレッチェ広島の新ホームスタジアム「エディオンピースウイング広島」(広島県広島市)の屋根鉄骨建方および張弦ケーブル設置・緊張工事を受注しました。

工事の特徴

約28,520席もの観客席数をカバーする大屋根のトラスを複数のブロックに分けて地上で組み立てた後、大型クレーンで架設する工法で行いました。部材や資材を可能な限り地組して高所での作業を減らし、安全に施工できるように計画および管理を行いました。

屋根鉄骨は「張弦梁」と呼ばれる大スパンを形成できる構造となっており、張弦ケーブルを用いることで全長130mにわたって柱のない空間を実現しています。大屋根トラスの下部に張弦ケーブルを配置し、各種計測器を用いて精密な荷重・変形管理の下で油圧ジャッキでの緊張工事を実施しました。

最後に

2024年2月10日、日本初の「まちなかスタジアム」である本スタジアムのこけら落としとして、サッカーのプレシーズンマッチが開催されました。本工事を通じて、世代や国を超えて多くの方々が集う空間の創出に貢献することができました。今後も当社が持つ特殊技術を最大限生かし、地域社会に貢献してまいります。

※表紙にはエディオンピースウイング広島の外観写真を使用しています。

New Member of the board

▶ 新任役員紹介

取締役

しづむら はるこ
渋村 晴子 社外取締役
(監査等委員)

略 歴

1994年 4月	弁護士登録(第二東京弁護士会) 本間・小松法律事務所 (現 本間合同法律事務所) 入所	2019年 6月	ニチレキ株式会社社外取締役(現任) アステラス製薬株式会社社外取締役 (監査等委員)
1999年 4月	同所パートナー弁護士(現職)	2023年 6月	株式会社タムラ製作所社外取締役 (監査等委員)(現任)
2015年 6月	ニチレキ株式会社社外監査役	2024年 6月	当社社外取締役(監査等委員)(現任)
2018年 6月	株式会社タムラ製作所社外取締役		



執行役員

おごし としあき
生越 寿昭 執行役員

略 歴

1986年 4月	当社入社	2024年 4月	当社執行役員(現任)
2016年 6月	株式会社横河システム建築取締役設計部長、生産情報部担当		株式会社横河技術情報取締役社長執行役員
2020年 1月	株式会社ワイ・ティール・ピー代表取締役社長	2024年 6月	同社代表取締役社長執行役員(現任)
2020年 6月	株式会社ワイ・ティール・ピー代表取締役社長執行役員		

執行役員

たかふじ しんじ
高藤 伸治 執行役員
調達室長

略 歴

1990年 4月	当社入社	2024年 4月	当社執行役員調達室長(現任)
2020年10月	株式会社横河ブリッジ執行役員大阪支店長兼生産本部長		株式会社横河NSエンジニアリング 執行役員鹿島工場担当(現任)
2022年 4月	同社執行役員大阪支店長兼生産本部長 当社調達室長		

Corporate Data & Stock Information

▶ 会社概要および株式情報 (2024年3月31日現在)

■ 会社概要

社 名	株式会社横河ブリッジホールディングス
所 在 地	〒108-0023 東京都港区芝浦四丁目4番44号 TEL:03-3453-4111(代表)
資 本 金	9,435百万円
主 な 機 能	経営戦略、法務・監査、経理・財務 総務・人事、IR・広報、技術研究開発

■ 役員一覧 (2024年6月26日現在)

代 表 取 締 役 社 長	高 田 和 彦
取 締 役 常 務 執 行 役 員	宮 本 英 典
取 締 役 常 務 執 行 役 員	吉 田 昭 仁
取 締 役 執 行 役 員	中 村 讓
社 外 取 締 役	黒 本 和 憲
社 外 取 締 役	天 野 玲 子
社 外 取 締 役	神 野 秀 磨
社 外 取 締 役	吉 川 智 三
取 締 役 常 勤 監 査 等 委 員	廣 川 亮 吾
社 外 取 締 役 監 査 等 委 員	尾 崎 聖 治
社 外 取 締 役 監 査 等 委 員	渋 村 晴 子
専 務 執 行 役 員	高 木 清 次
常 務 執 行 役 員	小 林 明
常 務 執 行 役 員	栗 原 一 也
執 行 役 員	梶 宏 人
執 行 役 員	湯 川 雅 之
執 行 役 員	生 越 寿 昭
執 行 役 員	高 藤 伸 治

■ 株式の状況

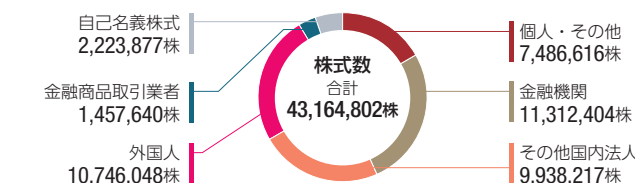
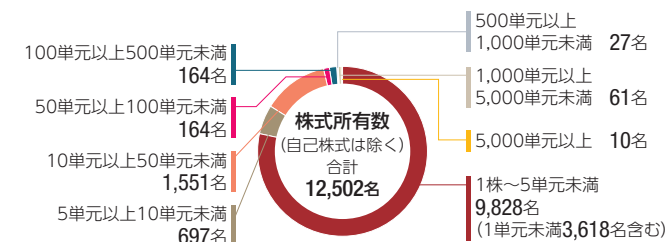
発行可能株式総数	180,000,000株
発行済株式総数	43,164,802株
株主数	12,503名

■ 大株主 (上位10名)

株主名	所有株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	5,166	12.62
(株)日本カストディ銀行(信託口)	3,178	7.76
日本製鉄(株)	1,987	4.85
横河電機(株)	1,676	4.09
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT	1,173	2.86
横河ブリッジホールディングス従業員持株会	911	2.22
RE FUND 107-CLIENT AC	799	1.95
住友不動産(株)	674	1.64
三菱UFJモルガン・スタンレー証券(株)	635	1.55
日本生命保険相互会社	543	1.32

(注) 1. 当社は、自己株式を2,223,877株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

■ 株式分布状況



■ 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年3月31日
基準日	期末配当 毎年3月31日
	中間配当 毎年9月30日
定時株主総会	毎年6月
単元株式数	100株
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問い合わせ先	電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) 受付時間 9:00～17:00 (土日休日を除く)
公告方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
公告掲載URL	https://www.ybhd.co.jp/



表紙の写真 エディオンピースウイング広島

所在地：広島県広島市中区基町15番2-1
敷地面積：49,914㎡
観客席数：約28,520席

「世代や国をこえて、人が集い、楽しみ、歓喜し、憩う、まちなかスタジアム。」をコンセプトとして広島市内中心部に建設された本スタジアムは、日本で初めての都心交流型スタジアムパークです。

「エディオンピースウイング広島」という名称には、「恒久平和と、夢や希望を持って明るいま未来へ羽ばたく」という願いが込められており、翼(ウイング)をイメージして設計されたスタジアムの屋根にも由来しています。

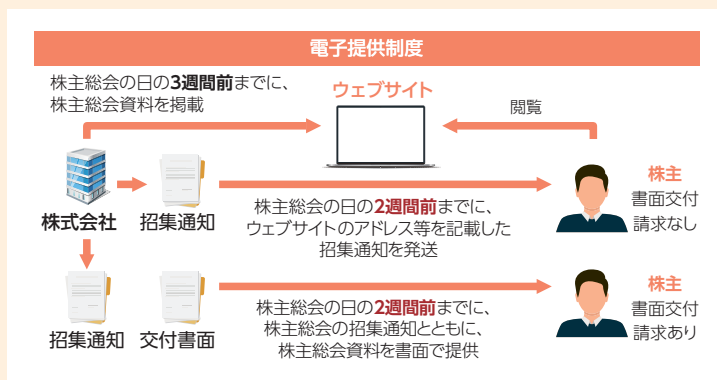
工事の詳細はp.8をご覧ください。

(参考 <https://hiroshima-stadiumpark.jp/peacewing/news/kickoffpresentation/>)

■ 電子提供制度について

改正会社法(2022年9月1日施行)により、株主総会資料の電子提供制度が開始されました。従来どおり事業報告等を含めた株主総会資料一式の書面でのお受け取りを希望される株主様は、株主総会の基準日までに、お取引のある証券会社または株主名簿管理人を通じて書面交付請求のお手続きが必要となります。なお、すでにお手続き済の株主様は、重ねてお手続きいただく必要はございません。

当社では、2023年6月開催の定時株主総会から電子提供制度が適用されておりますが、同株主総会および2024年6月開催の定時株主総会においては、書面交付請求の有無にかかわらず、株主の皆様には一律に株主総会資料を送付いたしました。



株式会社 横河ブリッジホールディングス

〒108-0023 東京都港区芝浦四丁目4番44号
TEL. 03-3453-4111 (代表) <https://www.ybhd.co.jp/>

